

パブリックコメント手続の実施結果について

1 案件名

ひらつか健康・食育プラン21

2 案件の概要

ひらつか健康・食育プラン21（第3次平塚市健康増進計画・第3次平塚市食育推進計画）は、本市の健康増進・生活習慣病の発症予防、重症化予防・食育を総合的、計画的に進めるための指針を示した計画です。計画期間は令和6年度（2024年度）から令和17年度（2035年）とし策定します。

3 募集概要

(1) 意見の募集期間

令和5年12月1日（金）～令和6年1月4日（木）

(2) 意見の提出方法

持参、郵送、FAX、電子メール、e-kanagawa 電子申請システム

4 実施結果

(1) 提出意見数

個人から	2 人	12 件
団体から	0 団体	0 件
合計	2	12 件

(2) 意見内訳

項目	件数 (件)
計画全体	8
第4章 健康づくり運動の推進【第3次平塚市健康増進計画】	2
第5章 食育の推進【第3次平塚市食育推進計画】	1
概要版	1
合計	12

(3) 意見への対応区分

項目	説明	件数 (件)
ア：反映	意見を受けて計画案等を修正したもの又は意見の趣旨が計画案等に沿ったもの	3
イ：参考	事業・取組を推進する上で参考とするもの	7
ウ：その他	意見募集の範囲と異なるもの、反映が困難なもの、質問など	2
	合計	12

5 意見対応表

番号	項目	市民意見の概要	市の考え方	対応区分
1	計画全体	青年期・壮年期・高齢期の男性・女性の飲酒頻度の割合（令和4年度）の調査に回答した人数は何人か。	実態調査人数は3,000人で、有効回収数は1,060件です。このうち、飲酒に関する調査は20歳以上の1,042人が回答しています。	ウ その他
2	計画全体	男性・女性の年代別喫煙者の割合について ①この調査に回答した人数は何人か。 ②平成26年度男性の60代が突出しているのはなぜか。 ③平成26年度女性の30・60代の割合が高いのはなぜか。 ④令和4年度男性の20～50代で割合が増えた理由は。	①実態調査人数は、平成26年度は3,000人（20歳以上）で、有効回収数は1,334件です。このうち、男性596人、女性728人、その他10人です。令和4年度の回答人数は、「番号1」と同様です。 ②・③平成26年度の調査で男女の60代の割合が高いのは、健康増進法改正前で職場や店舗内で禁煙が義務付けられていない等の環境的要因やニコチンの依存性等で禁煙ができずに続いてしまっていることが考えられます。また、30代の女性は、同居するパートナーも喫煙者であったり、ライフステージの特徴として、就労や子育てなど活動的な時期でストレスが多い等が考えられます。 ④2013年（平成25年）から販売された加熱式たばこの急速な普及が考えられます。加熱式たばこは、紙巻きたばこより健康への影響が少ないという期待から若い世代に使用者が多い傾向にあります。	ウ その他
3	計画全体	【要約】 ○「肥満予防に取り組む必要がある」とあるが、「糖分とり過ぎの注意喚起」を行っていないのはなぜか。塩分制限は厳しく指導するのに対し、糖分に対して記載がないのはバランスが取れていないように思う。 ○朝食を食べるのが良い事のように誤った受け取り方をされてしまいがちですが、1日2食や1食がちょうどよいという人もいて様々である。	概要版には、前計画の評価からみる主な本市の現状と課題を掲載しており、「ひらつか健康・食育プラン21（第3次平塚市健康増進計画・第3次平塚市食育推進計画）」の全体像を示しているものではありません。 ご指摘のとおり、健康増進や食育推進は食生活に関することだけではなく、様々な個々に応じた望ましい生活習慣の実現を通じ健康寿命の延伸を図ることを目標とし、基本理念を「市民一人一人が生涯にわたり健やかで心豊かに生活で	ア 反映

		<p>栄養も、塩分制限を謳い、むしろ制限した方が良いと思われる糖分制限の記載がないのはバランスを欠いている。一人ひとりの消費エネルギーと摂取エネルギーのバランスを考えていく方がすべての人にとって最善策である。</p> <p>○食事の形態は人それぞれであり、すべてを同じにしようとするところに無理があるのではないか。個々の状況に合わせるという考え方が最善策と思われる。</p>	<p>きるよう全世代を通じて継続的に行われる健康づくり・食育の推進」と定め、総合的に進めてまいります。また、ご指摘の内容を参考とし、市民により丁寧な説明を示すこととして、第4章「2 生活習慣の改善にむけた健康行動と取組内容」のあとに、リード文を追記し、第4章2（1）栄養・食生活②主な現状と課題にも項目を追加記載しました。</p>	
4	計画全体	<p>【要約】</p> <p>○高血圧発症の要因を塩分と決めつけるような表現は再考したほうがよいと厚生労働省に自治体から提案するとよい。</p> <p>○高血圧予防のための生活習慣というのは塩分制限のことか。生活習慣や服薬だけでなく、多角的に見て再考する方がよい。</p> <p>○日本高血圧学会のガイドラインは参考になっているが、一人一人の体質体調食生活環境等に応じた、こまやかな食事のアドバイスができる人材が求められていると思う。</p>	<p>高血圧の発症・重症化予防をするための取組は、科学的根拠に基づいて記載されているガイドライン等を参考に一般的な普及啓発を行うとともに、市民一人一人が適切な生活習慣を自己管理できるように個別の取組も引き続き推進してまいります。</p>	イ 参考
5	計画全体	<p>オーラルフレイルについて</p> <p>○日本語表記で分かりやすい表現にしてもらいたい。高齢者が該当することが多いと思われること、日本語表記のほう万人にわかりやすく浸透しやすいと思われる。</p> <p>○2014年から提唱されているにもかかわらず、10年たってもほとんどの方が知らないことから日本語表記が望ましい。</p> <p>○日本語表記やキャッチコピーを公募する等広く市民にアピールすることもできると考える。</p>	<p>オーラルフレイルの概念は、2015年に厚生労働省の研究事業で、身体の衰え（フレイル）の一つとして提唱され、その後、日本歯科医師会や日本老年医学会等でも「オーラルフレイル」の名称で活用されています。本市では、国や県、歯科医師会、学会等と同様に「オーラルフレイル」の名称で市民の皆様の認知度を高め、「食（口腔）」「運動」「社会参加」を軸としたフレイル予防を推進していきたいと考えます。また具体的な周知方法についても参考にさせていただきます。</p>	イ 参考

6	計画全体	<p>【要約】</p> <p>英国の医学雑誌では、血圧140mmHgの人が減塩しても収縮期血圧で3.6mmHg、拡張期血圧で1.6mmHg下がるだけと記載されている。また、臨床医によると、減塩によるメリットより、塩分と水分の不足による脱水による、虚血性心疾患、熱中症等の疾病発症のリスクのほうが高いといわれている。</p>	脳血管疾患などの発症リスクとなる脱水や高血圧の予防について科学的根拠に基づいて記載されているガイドライン等を参考に対策を進めてまいります。	イ参考
7	計画全体	<p>【要約】</p> <p>子どもが高齢になった時のことを考えて、ミネラルたっぷりの塩分（天然塩）を子どものうちから摂らないようにしておくというのはいかかなものか。塩分制限は本当に必要なものなのか否か、一人ひとりで違ってくる。</p>	高血圧等生活習慣病の発症・重症化予防をするための取組は、科学的根拠に基づいて記載されているガイドライン等を参考に一般的な普及啓発を行うとともに、市民一人一人が適切な生活習慣を自己管理できるように個別の取組も引き続き推進してまいります。	イ参考
8	計画全体	<p>○協同する住民組織とは具体的にどういうものか。</p> <p>○農家さん、食品メーカー、畜産業、漁業、専門家、行政、国、市民が協力し合い大きな視点で見ていく事が解決の近道と思われる。</p>	第6章「1 市民との協働・産学官連携による健康づくり・食育の推進」では、健康づくりや食育の取組は幅広い分野にわたる関係者が、その特性や能力を活かしつつ、主体的に、かつ、互いに連携・協働していくこととしています。これらの取組については、「平塚市食育推進会議」において各分野の食育に関わる専門家や市民委員により推進の進捗管理を行います。	ア反映
9	第4章 健康づくり運動の推進【第3次平塚市健康増進計画】	薬に頼らず自分の体は自分で管理できるように自己啓発も望まれると思う。	高血圧の発症・重症化予防をするための取組は、全体に対して一般的な普及啓発を行うとともに、市民一人一人が適切な生活習慣を自己管理できるように個別の取組も引き続き推進してまいります。	イ参考
10	第4章 健康づくり運動の推進【第3次平塚市健康増進計画】	<p>【要約】</p> <p>○がんの原因となる生活習慣は何か。</p> <p>○人類初の遺伝子ワクチンである新型コロナウイルスワクチンと急激な癌（ターボ癌）との関係が予想されるが、厚生労働省や国では未だに検証されていない。そこで、ターボ癌の発症を減らすため、平塚市が因果関係が確定するまでは、世界の状況等も参考にしつつ、十分な検証をしていくことが求められていると思う。</p>	予防可能ながんのリスク要因として、感染、喫煙（受動喫煙を含む）、飲酒、身体活動の不足、肥満・やせ、野菜・果物不足、塩分の過剰摂取等、生活習慣に関連するものがあります。健康づくりの取組として、これらの対策を行っていくことで、がんの罹患率減少を図ってまいります。また、各種がん検診の受診率向上に取り組み、国等が進める科学的根拠に基づいたがんリスク評価、がん予防ガイドラ	イ参考

		○予防可能ながんのリスク要因として、禁煙者が増えた現在でも、がん患者が増えている。より良い食事を摂ることも重要であるが、添加物や加工食品を減らしていくことも必要かもしれない。何事もバランスが大切だと考える。	イン等をはじめ、新型コロナワクチンとがんとの関連については、厚生労働省の動向を引き続き注視してまいります。	
1 1	第5章 食育の推進【第3次平塚市食育推進計画】	地産のものをより自然で安全安心なオーガニックを主にしたものを市民（特に子どもたち）へ提供していく事を最優先で考えてほしい。	農林水産省が令和3年5月に策定した「みどりの食料システム戦略」において、有機農業の取組面積の割合を拡大するよう位置づけられています。また、従来より本市で取り組まれてきた農業とのバランスを図ることが重要だと考えています。ご意見を参考とし、事業の充実を図ってまいります。	イ 参考
1 2	概要版	食に対する感謝する「気落ち」と記載されています。	「気持ち」に修正しました。	ア 反映

<お問い合わせ先>

平塚市健康・こども部健康課

電 話：0463-55-2111

電子メール：kenko@city.hiratsuka.kanagawa.jp